

HILTI

DST 10-CA

取扱説明書

ja



DST 10-CA 電動ウォールソー

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は必ず本体と一緒に保管してください。

他の人が使用する場合には、本体と取扱説明書を一緒にお渡しください。

目次

1	一般的な注意	3
2	製品の説明	5
3	アクセサリ	6
4	製品仕様	8
5	安全上の注意	10
6	作業準備	17
7	装置の設置	19
8	ご使用前に	31
9	手入れや保守	35
10	故障かな? と思った時	39
11	廃棄	40
12	本体に関するメーカー保証	41
13	EU規格の準拠証明(原本)	42

この説明書で「ソー」または「ウォールソー」と呼ばれる工具は、常に DST 10-CA 電動ウォールソーを指しています。リモートコントロールユニットの取扱いに関する注意事項は、リモートコントロールユニットに同梱されている取扱説明書をご覧ください。

本体概要



- ① ソーヘッド
- ② リモートコントロールユニット
- ③ 搬送ワゴン
- ④ ブレードカバーセンターセクション
- ⑤ エンドストップ付きガイドレール
- ⑥ ブレードカバーサイドセクション
- ⑦ アクセサリー収納箱
- ⑧ ブレード収納ケース
- ⑨ ソーブレード

1 一般的な注意

1.1 安全に関する表示とその意味

危険

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。

警告事項

この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。

注意

この表記は、軽傷あるいは所持物の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。

注意事項

この表記は、本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報を示す場合に使われます。

1.2 記号の説明と注意事項

警告表示



一般警告事項



電気に関する警告事項



切創事故に対する警告

義務表示



ご使用前に取扱説明書をお読みください



耳栓を着用してください



保護メガネを着用してください



保護手袋を着用してください



安全靴を着用してください



所定のフック位置

略号



直径

n_0

無負荷回転数

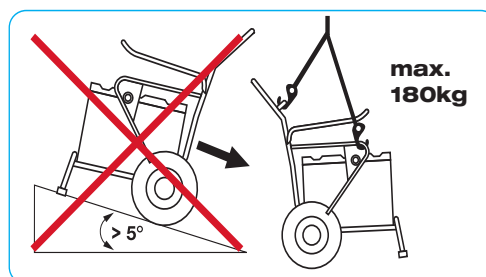
/min

毎分回転数



リサイクル規制部品です

搬送ワゴン積載時



搬送ワゴンを傾斜させた状態で停止させると不安定になります。

搬送ワゴンは必ず所定のクレーンフック位置で吊り上げるようにしてください。

ソーヘッド上



損傷を防止するために水圧は6 bar 未満に維持してください。凍結の危険がある場合は所定の方法により冷却回路をブロウしてください。

ソーヘッド上

CUT ASSIST

本体は Cut Assist 機能を備えています。

機種名・製造番号の表示箇所

機種名、商品番号、製造年、および技術レベルは本体に取り付けられている銘板に表示されています。製造番号はソーヘッドのロックグリップの側方に表示されています。これらのデータを御自身の取扱説明書にメモ書きしておき、お問い合わせなどの必要な場合に引用してください。

1 一般的な注意

機種名 : DST 10-CA ソーヘッド

製品世代 : 01

製造番号 :

2 製品の説明

2.1 正しい使用

DST 10-CA は、無線またはリモートコントロールケーブルにより操作する水冷式電動ウォールソーです。

直径 600 mm...900 mm のダイヤモンドソーブレードを使用して、軽度から中程度の鉄筋コンクリートおよび石材を切断できます (最大開始ブレード直径 : 800 mm)。

粉じんを飛散しないようにまとめ、またブレードおよびモーターを冷却するために水道水を使用します。

DST 10-CA は専用のヒルティウォールソーブレードとともに使用すると、最良の切断能力を発揮することができます。

必ず 63 m/s 以上の切断速度と EN 13236 の規定に対応したダイヤモンドウォールソーブレードを使用してください。

本体の固定には、必ず十分なサイズの固定エレメントを使用してください。

切断により健康に害を及ぼす (例 : アスベスト)、あるいは爆発性の埃または揮発性ガスが発生する可能性のある物質は切断しないでください。

可燃性の物質は切断しないでください。

Cut Assist 機能は斜め切断および階段切断には適していません。

上向きに切断を行う場合は必ず追加の安全対策を行ってください。

これについては、最寄りのヒルティ販売アドバイザーにご相談ください。

けがの可能性を防ぐため、必ずヒルティ純正の、アクセサリや先端工具のみを使用してください。

工事現場の電気供給配線には必ずアース線と漏電遮断器 (FI タイプ A、最大作動電流 30 mA) が備わっていて、それらが接続されていることを確認してください。

2.2 本体標準セット構成

- 1 ソーヘッド
- 1 リモートコントロールユニット
- 1 ソーヘッドの取扱説明書
- 1 リモートコントロールユニットの取扱説明書
- 1 ツールセット
- 1 DS-BG80 ブレードカバー (最大 \varnothing 900 mm のソーブレードに対応)
- 4 レールサポート
- 1 搬送箱
- 1 搬送ワゴン
- 1 ダブルテーパー
- 3 偏心ピン

3 アクセサリー

3 アクセサリー

その他のアクセサリーは最寄りのヒルティセンター、またはwww.hilti.comでご確認ください。

3.1 レールシステム用アクセサリー

略号	名称	説明
DS-R100-L	レール	ソーヘッドガイド
DS-R200-L	レール	ソーヘッドガイド
DS-R230-L	レール	ソーヘッドガイド
DS-ES-L	エンドストップ	ソーヘッドの安全ストップ
DS-CP-ML	レールフック	レール固定具
DS-RF-L	レールサポート	レール固定具
DS-RFP-L	レールサポート	斜め切断および階段切断用レール固定具

3.2 通常切断ブレードカバー用アクセサリー

略号	名称	説明
DS-BG65	ソーブレードカバー	ソーブレードのガード、650 mm Øまで
DS-BG80	センターセクション ¹	ソーブレードのガード、600 mm...900 mm Ø
DS-BG80	サイドセクション	ソーブレードのガード、600 mm...900 mm Ø
DST-BG80	ソーブレードカバー	ガード、800 mm Øまで

¹ 必ずサイドセクションとともに使用してください

3.3 フラッシュ切断ブレードカバー用アクセサリー

略号	名称	説明
DS-BGF80	センターセクション ¹	フラッシュ切断用ソーブレードのガード、600 mm...900 mm Ø
DS-BGF80	サイドセクション	フラッシュ切断用ソーブレードのガード、600 mm...900 mm Ø

¹ 必ずサイドセクションとともに使用してください

3.4 フラッシュ切断フランジ用アクセサリー

略号	名称	説明
DS-FCA-110	フラッシュ切断フランジ	フラッシュ切断用ソーブレード固定具
DS-FCA-110FF	追加フランジ	フラッシュ切断用ソーブレード固定具

4 製品仕様

4 製品仕様

技術データは予告なく変更されることがあります。

DST 10-CA ソーヘッドの製品仕様

公称データが保証されるのは、温度 18 °C、高度海拔 2000 m までです

公称出力 ¹	9 kW
回転数	160... 1,275/min
電源電圧 ²	380... 400 V
周波数	50 / 60 Hz
ピン割り当て	3~+PE
消費電流	16 A
電源ヒューズ最小 / 最大	16 A
ソーブレード直径 (Ø)	600... 900 mm
最大開始ブレード直径 (Ø)	Max. 800 mm
最大切り込み深さ	Max. 38 cm
重量	32 kg
本体寸法 (長 × 幅 × 高)	36.5 × 40 × 35 cm
保管温度 ³	-25... +63°C
操作時の周囲温度 ³	-15... +45°C
冷却水温度	流量 4 l/min: +4... +30°C
冷却水圧	2... 6 bar
保護等級 ⁴	IP 65

¹ 連続動作モード 100%

² 電圧 370 V 未満では出力低減

³ 凍結点以下の温度では、使用の前に本体をゆっくりと温め、使用の後は冷却回路をブロワしてください (ポンプは本体標準セット構成に含まれています)。

⁴ EN 60529:2000-09 準拠保護等級 IP65、6 = 塵埃侵入に対する保護、5 = 放射水に対する保護

騒音について (EN 15027 準拠)

耳栓を着用してください。

注記: 減音ソーブレードによりサウンドプレッシャーレベルを約 10 dB (A) 低減することができます。

典型的な A 評価サウンドパワーレベル	114.5 dB (A)
典型的な A 評価排出サウンドプレッシャーレベル	96.9 dB (A)
定格騒音レベルに対する不確実性	3 dB (A)

搬送ワゴンの製品仕様

本体寸法 (長 × 幅 × 高)	積載時 : 110 × 69 × 118 cm
積載時重量 ¹	100 kg
許容総重量	Max. 180 kg
¹ 本体標準セット 構成品の内容	

5 安全上の注意

5 安全上の注意

△ 警告事項

警告事項と安全上の注意に違反すると、生命に危険が及ぶ負傷や重大な物的損害が発生する危険があります。

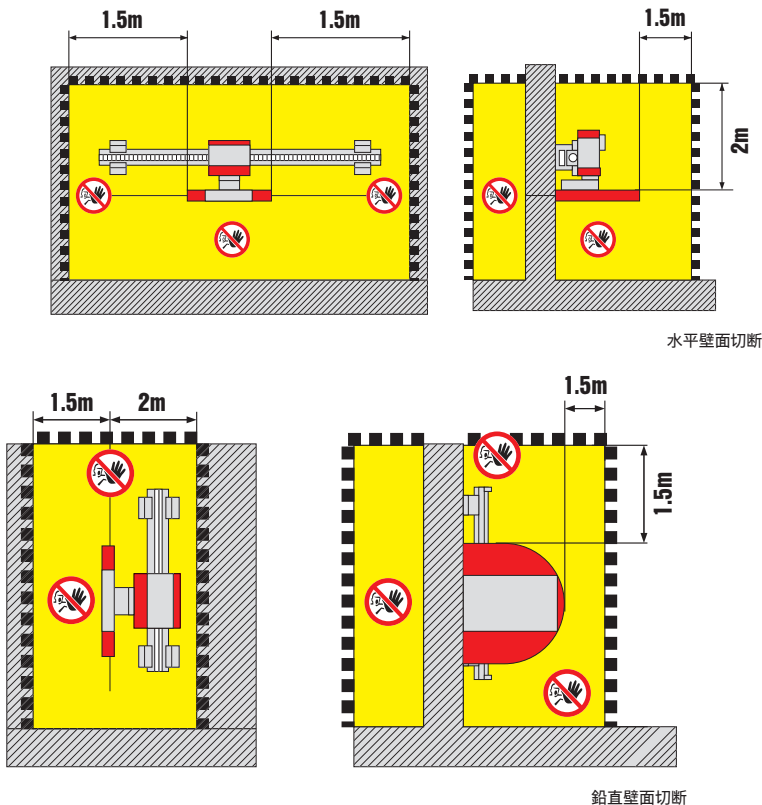
5.1 作業場の整理整頓

- a) 穴あけおよび切断作業は現場監督者の許可を得て行ってください。建物およびその他の構造物への穴あけおよび切断作業、特に鉄筋または鉄骨梁の除去は静力学に影響を及ぼします。
- b) 作業場の採光に十分配慮してください。
- c) 作業場の換気に十分配慮してください。作業場の換気が十分でないと、粉じんによる汚染で健康が害される恐れがあります。
- d) 作業場の整理整頓に心がけてください。事故の原因となり得る危険物は作業区域から取り除いておいてください。作業場が整理整頓されていないと、事故を引き起こすことがあります。
- e) 外れたり落下したりあるいは切断によりむき出しになったブロックは、負傷および/または損傷の原因となる危険があります。切断によりむき出しになったブロックは、適切な固定具（鋼製ウェッジやサポートなど）で勝手に動き出さないように固定してください。
- f) サポートを十分な寸法で正しく設置して、切断作業の実施後および切断した構造物要素の解体の後も、残りの構造物が確実に維持されて崩れることがないようにしてください。
- g) 懸架されている重量物の下には決して立ち止まらないでください。
- h) 切断部または作業により生じた開口部は、人が落下するのを防止するため、確実に、かつよく見えるようにして周囲から遮断してください。
- i) 保護用具を使用してください。安全靴、保護手袋、耳栓、保護メガネ、および必要に応じてヘルメットを着用してください。
- j) 鉱物粉じんなどの特定の粉じんは発がん性物質と見なされています。粉じんが発生する作業の際には、防じんマスクを着用してください。
- k) 適切な作業着を着用してください。だぶだぶの衣服、ぼさぼさの長髪や装身具は、動作部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないでください。長髪の場合は適当なかぶり物をしてください。
- l) 本体は子供の手の届かない所に置いてください。作業場には関係者以外の人を立ち入らせないでください。
- m) 本体は、子供や体の弱い人が指示を受けずに使用するには向いていません。
- n) 本体で遊んではいけないことを子供に伝えてください。
- o) 含鉛塗料、特定の種類の木材、コンクリート / 石材、石英を含む岩石、鉱物および金属などの母材から生じた粉じんは、健康を害する恐れがあります。作業場や近くにいる人が粉じんに触れたり吸い込んだりすると、アレルギー反応や呼吸器疾患を起こす可能性があります。カシヤブナ材などの特定の粉じんは、特に木材処理用の添加剤（クロム塩酸、木材保護剤）が使用されている場合、発ガン性があるとされています。アスベストが含まれる母材は、必ず専門家が取り扱うようにしてください。できるだけ集じん装置を使用してください。集じん効率を高めるには、適切な可動集じん装置を使用してください。必要に応じてそれぞれの粉じんに適した防塵マスクを着用してください。作業場の換気に十分配慮してください。処理する母材について、各国で効力を持つ規定を遵守してください。

- p) 作業関係者以外の人、装備または延長コードに触れることがないようにしてください。
- q) 不安定な姿勢はとらないでください。足元を確かにし、常にバランスを保ちながら作業してください。
- r) 作業中の転倒の危険を防止するために、電源コードとホースは必ず起伏なく本体からガイドしてください。
- s) 電源コードとホースは回転部品から遠ざけてください。
- t) 作業時にガス管、水道管、電線あるいはその他の配管を損傷すると、重大な事故が発生する危険があります。現場監督者とともに、切断領域にガス管、水道管、電線あるいはその他の配管がないことを確認してください。たとえば電線を損傷すると、本体外側の金属部分が通電する可能性があります。
- u) 予期せずに流出あるいは飛散する水は損傷や事故の危険があります。水は、石材内などの目視確認できない内側の空隙部を介しても流出する可能性のあることも考慮してください。冷却水が正しく流出し、適切に吸引されていることを確認してください。
- v) 梯子上で作業してはなりません。

5 安全上の注意

5.2 危険領域の保護対策



水平壁面切断

鉛直壁面切断

作業領域には保護対策を施してください。落下したり、飛び出したりあるいは動いている部品により人や設備が危険にさらされることがないのを確認してください。

本体の操作時には、すべての可動部品から1.5m以上の安全間隔を確保してください。

回転しているソーブレードの切断面には決して立ち止まらないでください。

本体の下には決して立ち止まらないでください。

直接目視確認できない後方の切断領域にも保護対策を施してください。

必要なサポート、バリケード、第三者への警告板を設置してください。

切断によりむき出しになった構造物要素の取付けおよび解体の際には、作業領域の下方に人がいないことを確認してください。

注意事項

落下部品は重傷事故の原因となることがあります。

5.3 一般的な安全対策

- a) 本体は、必ず取扱説明書を読んでその内容を理解し、使用前にヒルティの専門員から安全な使用についての講習を受けてから使用してください。すべての警告事項および注意事項を遵守してください。
- b) 危険な状況に気付いた場合には、リモートコントロールユニットの非常停止ボタンを押してください。
- c) 危険な状況に気付いた場合には、電源コードをコンセントから抜きます。
- d) 用途に合った工具をご使用ください。本体を本来の目的以外には使用しないでください。必ず、指示にしたがい、不具合のない状態で使用してください。
- e) 本体を指定された用途以外に使用すると危険な状況をまねく恐れがあります。本説明書内の指示に従うとともに、各形式に合った工具、アクセサリ、先端工具を使用してください。その際には、作業環境および用途についても注意してください。
- f) 取扱説明書に記されたヒルティ純正の付属品、アクセサリのみを使用してください。取扱説明書に指定されていない付属品やアクセサリを使用されると、怪我の原因となります。
- g) 電動工具から火花が飛散し、粉じんやガスに引火する恐れがあります。周囲条件を考慮してください。火災や爆発の恐れがあるような状況では、本体を使用しないでください。
- h) グリップ表面は乾燥させ、清潔に保ち、オイルやグリスで汚さないようにしてください。ソーヘッドのロックを解除する前に、ソーヘッドを確実に保持していることを確認してください。
- i) 本体に負荷をかけ過ぎないでください。規定の出力範囲で十分に効率的で安全な作業が可能です。
- j) 決して本体を放置しないでください。
- k) 本体を使用しない時には、確実に保管してください。未使用時には、本体を乾いた高い場所に施錠し、子供が触れない状態で保管してください。
- l) 本体を使用していない時（休憩時間中など）、ソーヘッドの取付けの前、手入れや保守を行う前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。この安全処置により、本体の不意の始動を防止することができます。
- m) 電気接点を雨や湿気から保護してください。
- n) 電動工具のスイッチを入れる前に、必ず調節キーやレンチを取り外してください。ブレードあるいはレンチが本体の回転部に装着されたままでは、負傷の原因となることがあります。
- o) 使用前に、本体、ブレードおよびアクセサリに不具合がなく規定どおりに機能するか点検してください。可動部分がスムーズに回転し、動きに硬さがないか、あるいはパーツに不具合がないか点検してください。使用するパーツがしっかりと固定されて、問題のない安全な使用のための条件が整っているか確認してください。損傷しているパーツは、承認されている専門工場ですく正しく修理するか、あるいは交換する必要があります。
- p) 穴あけおよび切断作業で生じたスラッジに皮膚が触れないようにしてください。目に触れた場合には直ちに浄水で洗浄し、必要に応じて医師の手当てを受けてください。
- q) 塵埃が発生する作業（乾式切断など）の際には、防じんマスクを使用してください。集じん装置を接続してください。健康を損なう恐れのある母材（アスベストなど）への加工は許されません。
- r) 取扱説明書に記述された手入れ、保守に関する指示に従ってください。

5 安全上の注意

5.4 感電に対する保護

- a) 体が触れると感電の危険が大きくなります。感電の恐れがあります。アースされたパイプ、ラジエーター、電子レンジ、冷蔵庫などに体が接触しないようにしてください。
- b) 本体の電源コードを定期的に点検し、コードに損傷がある場合は資格のある修理スペシャリストに交換を依頼してください。延長コードを定期的に点検し、損傷している場合は交換してください。
- c) 本体とアクセサリに不具合がないか点検してください。損傷がある場合、システムが完全な状態でない場合、あるいは操作エレメントを正常に操作することができない場合には、本体とアクセサリを使用しないでください。
- d) 作業中にソーの電源コードが損傷した場合には、コードにもソーにも触れないでください。非常停止ボタンを押して、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- e) 損傷したスイッチは、ヒルティサービスセンターで修理してください。スイッチをオンオフできない場合は使用しないでください。
- f) 本体の修理は、必ず修理スペシャリスト（ヒルティサービスセンター）がヒルティ純正部品を使用して行うものとします。それ以外の場合には、使用者が危険にさらされる恐れがあります。
- g) 電源コードを本来の目的以外には使用しないでください。決して電源コードを持って本体を持ち運ばないでください。電源コードをコンセントから抜く時は、コードを引っ張らないでください。プラグを握って抜いてください。
- h) 電源コードを火気、オイル、鋭利な刃物等に触れる場所に置かないでください。
- i) 通電のある部品を切断した場合、あるいは絶縁故障の場合には、アースがないと生命の危険があります。本体は決してアースなしで使用しないでください。本体とそのアクセサリは、必ず

アース線と漏電遮断器のある電源に接続してください。使用の前にその都度これらが正常に作動するか点検してください。発電機を使用する場合は、あるいは現場にアース線接続がない場合は、アーススピットをセットします。

- j) 装置の電圧が銘板の記載と一致していることを確認してください。
- k) 電気コード、特にそのプラグ接続は乾燥した状態に保ってください。使用していない時はコンセントに同梱のカバーを取り付けてください。
- l) 当該の用途向けに承認された、十分な導体断面積をもつ延長コードのみを使用してください。巻き上げられた状態の延長コードを使用して作業しないでください、そうしないと出力が失われ、電源コードが過熱する危険があります。
- m) 修理および保守作業の前、あるいは作業を中断する際には電源接続を外してください。
- n) 本体内の個々の部品は、電源から切り離された後も最大で 10 分間生命に危険を及ぼす高電圧がかかっていることに注意してください。

5.5 使用者に留意して頂くこと

- a) 本体は、必ず必要な講習を受けたコンクリート切断専門員（以下「オペレータ」と呼びます）が操作するものとします。オペレータは取扱説明書の記載内容を完全に理解し、ヒルティの専門員から安全な使用についての講習を受けていなければなりません。
- b) 一瞬でも注意を怠ると重傷事故の危険があります。油断せずに十分注意し、常識をもった作業をおこなってください。疲れている場合、薬物、医薬品服用およびアルコール飲用による影響下にある場合には本体を使用しないでください。
- c) 保護用具を使用してください。安全靴、保護手袋、耳栓、保護メガネ、および必要に応じてヘルメットを着用してください。

5.6 操作中の安全について

- a) 使用の前に、ウォールソーとそのコンポーネント、ソーブレードおよびアクセサリーの機能に問題がないことをチェックしてください。損傷および誤作動は、使用の前に正しく修理するようにしてしてください。
- b) 外れたあるいは落下した部品は重大な損傷または重傷の原因となることがあります。作業を行うことができるのは、ウォールソーシステム（レールサポート）が確実かつ安定した状態で中空でない基礎に固定されていて、システムの設置が正しく行われている場合（すべてのネジが確実に締め付けられ、ソーヘッドが確実にレールにロックされ、エンドストップが取り付けられている）に限られます。
- c) 回転しているソーブレードの切断面には決して立ち止まらないでください。常に適切なソーブレードカバー（通常切断にはタイプBG、フラッシュ切断にはタイプBGF）を使用してください。
- d) 部分的に開いたブレードカバーでコーナー切断を行う場合には、操作はソーブレードカバーにより閉鎖または保護された側から行うものとし、必要に応じてオペレータは追加処置を講じるものとし（カバー、仕切り板、成形型枠）。
- e) 危険領域への立入り（ソーブレードの交換、ブレードカバーサイドセクションの取外し、くさびの設置などのため）は、ブレードドライブがオフにされソーブレードが静止している場合にのみ認められます。危険領域への立入りの前に非常停止ボタンを押してください。
- f) 回転部分に手を触れないでください。グリップ表面は乾燥させ、清潔に保ち、オイルやグリスで汚さないようにしてください。
- g) 切断の際には、許可されているドライブパラメータとソーブレード回転数および送り速度に関する推奨基準値を守ってください。
- h) 必ず EN 13236 の要求事項を満たすソーブレードを使用してください。技術仕様に指定された直径範囲を外れるソーブレードを使用してはなりません。ソーブレードは本体の移動方向に合わせて取り付けます。
- i) レーザー溶接セグメントのソーブレードを使用すると、セグメント折損のリスクを低減することができます。
- j) ウォールソーを使用する前にその都度、フランジとソーブレードに損傷（ブレードコアの亀裂など）がないか確認し、ブレード取付け部に付着した油脂を除去してください。
- k) ソーブレードは熱くなることがあるので作業用手袋を着けずにつかまさないでください。
- l) レールサポートの固定および構造物要素の支持には、必ず十分な寸法の固定具（アンカー、ネジなど）を使用してください。
- m) 推奨純正付属品以外を使用すると、負傷あるいは損傷の危険があります。必ずこの取扱説明書で推奨しているアクセサリーを使用してください。
- n) 足場や梯子を使用する場合には、これらが規定に従ったものであり、損傷がなく規定に従って設置されていることを確認してください。
- o) オペレータは、切断作業中のいかなる瞬間においても人が危険領域に立ち止まることがないことを確認する必要があります。切断の後方領域などの直接目視確認できない領域についても同様です。必要であれば十分な広さにわたり周囲から遮断するか、あるいは監視員を配置してください。
- p) 常に注意深く作業してください。切断の様子、冷却水および作業領域の周囲に注意を払ってください。作業に集中できない場合は、本体を使用しないでください。
- q) ソーシステムにはいかなる改造も施してはなりません。

5 安全上の注意

5.7 搬送時の安全上の注意

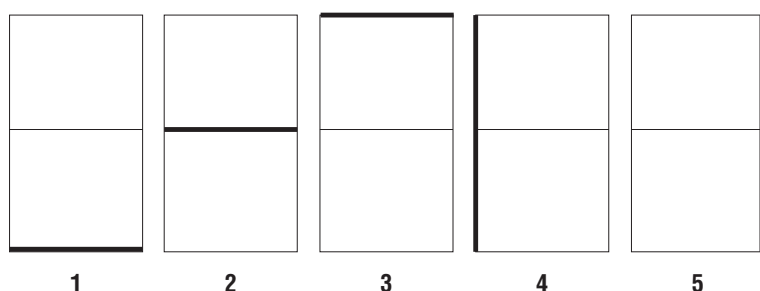
- a) 重量物を持ち上げたり運んだりしないでください。適切な揚重および搬送設備を使用し、必要に応じて重量物は複数の人員で搬送するようにしてください。
- b) 搬送にはグリップを使用してください。グリップ表面は乾燥させ、清潔に保ち、オイルやグリスで汚さないようにしてください。
- c) 本体は転倒する可能性があることに注意してください。本体は必ず平坦なしっかりした場所に置いてください。
- d) 搬送の際は、ソーシステムとその部品が誤まって滑って落下しないように固定してください。
- e) 本体のクレーンによる搬送は、必ず所定の位置で許可された揚重機を使用してください。搬送の前に、取外し可能なすべての部品は確実に搬送ワゴンに固定あるいはロックされていることを確認してください。懸架されている重量物の下には決して立ち止まらないでください。
- f) 傾く危険長さが 1.5 m 以上のレールは搬送ワゴンを傾けてしまう可能性があります。長さが 1.5 m 以上のレールは搬送ワゴンで搬送しないでください。傾いた搬送ワゴンは、負傷および物財の損傷の原因となることがあります。
- g) 搬送ワゴンはソーシステムと指定のアクセサリーの搬送のためのもので、その他のものの搬送に使用することはできません。

6 作業準備

6.1 切断順序の立案と切断および固定の表示

注意事項

通常の場合、切断すべき部分は工事発注者により指定されます。レールサポートを適切に位置決めすることで、合理的な切断順序にすることができます。



分割切断によるドア開口の切断順序の例

必要ならば、分割切断により最大コンクリートブロック重量を所定の条件（最大許容床面負荷、起重装置の許容重量、ドア寸法など）に対応させます。

切断したコンクリートの固定のために適切な鋼製ウェッジおよびサポートを使用します。

6.2 供給電源 / ヒューズ

注意

工事現場の電気供給配線には、電源からのものであるか発電機からのものであるかを問わず、必ずアース線と漏電遮断器が備わっていて、それらが接続されていることを確認してください。

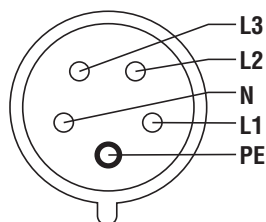
現場の電線は以下のように保護してください：

電圧の種類 3 × 380...400 V

ヒューズ	16 A
漏電遮断器 (FI)	タイプ A 30 mA
必要な発電機出力	Min. 20 kVA @ 16 A

6.3 供給電源 / 電源プラグ

接続概要



L1	位相 1
L2	位相 2
L3	位相 3
N	無極導線 (ソーには使用しないので配線されない)
PE	保護コンダクタ (アース)

電圧の種類	3 × 400 V
接続概要	3~ + N + PE - 16 A

6 作業準備

注意事項

個々の位相 (L1、L2、L3) の欠損および印加電圧は、リモートコントロールユニットに表示されます。

6.4 延長コード / 導体断面積

必ず当該の用途向けに承認された、十分な導体断面積をもつ延長コードを使用してください、そうしないとコードが加熱する危険があります。

EN 61029-1 によれば、16 A に対する導体断面積は 1.5 mm^2 以上でなければなりません (導体断面積 = 個々の導線の断面積)。

導体断面積が小さくて長い電源コードは電圧降下の原因となり、場合によっては性能が低下します。

電動ウォールソーの使用中は、延長ケーブルがケーブルリールに巻き上げられていないことを確認してください。

6.5 冷却水接続

水温が $25 \text{ }^\circ\text{C}$ の場合、ソーヘッドの冷却には約 2 l/min の流量が必要です。

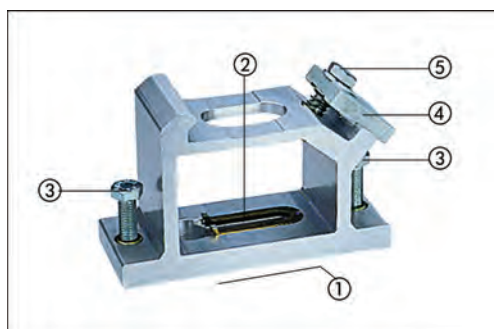
冷却能力が低すぎると本体の保護スイッチオフが作動します。

必ず汚れのない冷却水を使用してください。

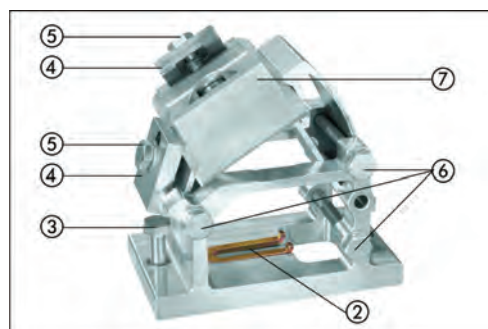
水道圧が低い場合には、水に汚れが混入しないように給水コネクタにノンリターンバルブを使用してください。

7 装置の設置

7.1 レールサポート



通常切断用レールサポート



斜め切断および階段切断用レールサポート

- ① 接触面
- ② レールサポート取付け用アンカーロット
- ③ レベル調整スクリュー
- ④ レールクランプ用クランププレート
- ⑤ レールクランプ用クランピングスクリュー
- ⑥ 斜め位置用クランピングスクリュー
- ⑦ 階段切断用クランププレート

7.2 レールサポートの固定

警告事項

母材に適したアンカーを使用し、アンカーメーカーの取付けに関する注意事項に注意してください。

注意

所定のレールサポート間隔を守らないと、切断がずれて極端な場合には誤ってアンカー固定部を切断してしまう危険があります。

注意

切断システムを十分な寸法で基礎に適応した方法で固定することは、効率的で安全な作業のための基本的な前提条件です。

警告事項

ヒルティの M12 金属系打込みアンカーは、一般に砕かれていないコンクリートへの装備のファスニングに適しています。しかしながら、特定の条件下では別のファスニング方法が必要となることもあります。確実なファスニングについては、弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店までお問い合わせください。

警告事項

砕かれたコンクリート、石材、人造および自然石ならびにこれに類する物資に使用する場合は、HKD-D M12 アンカーは適していません。

7 装置の設置

注意事項

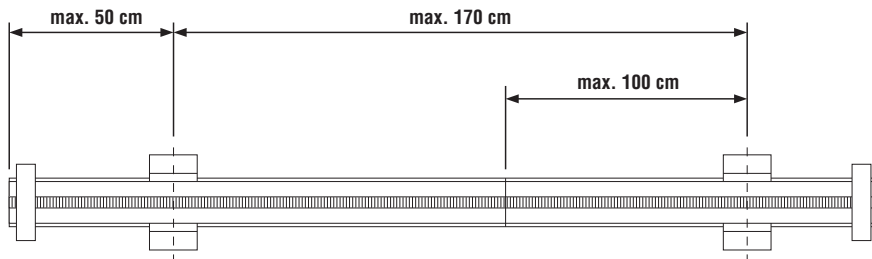
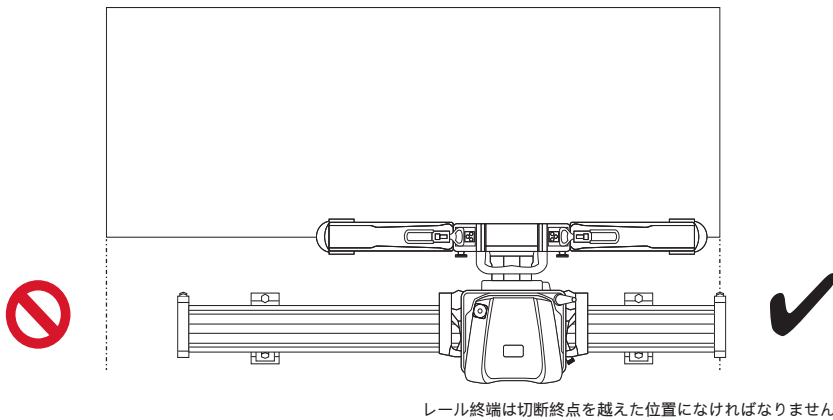
斜め切断および階段切断には、DS-RFP-L レールサポートを使用します。

注意事項

レール取付けの際には、エンドストップにより制限されるレール領域に少なくとも切断終点まで障害物がないことを確認してください。

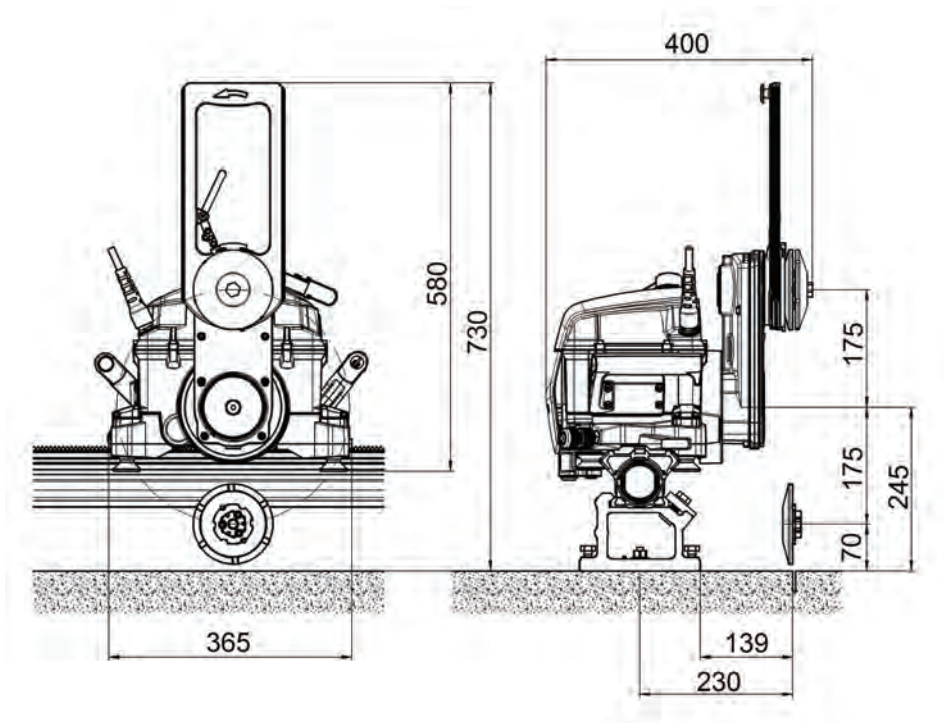
そうでない場合には、ソーヘッドがエンドストップにより停止させられて切断作業が中断する可能性があります。

レール終端、切断終点、レールサポートおよびアンカーの間隔

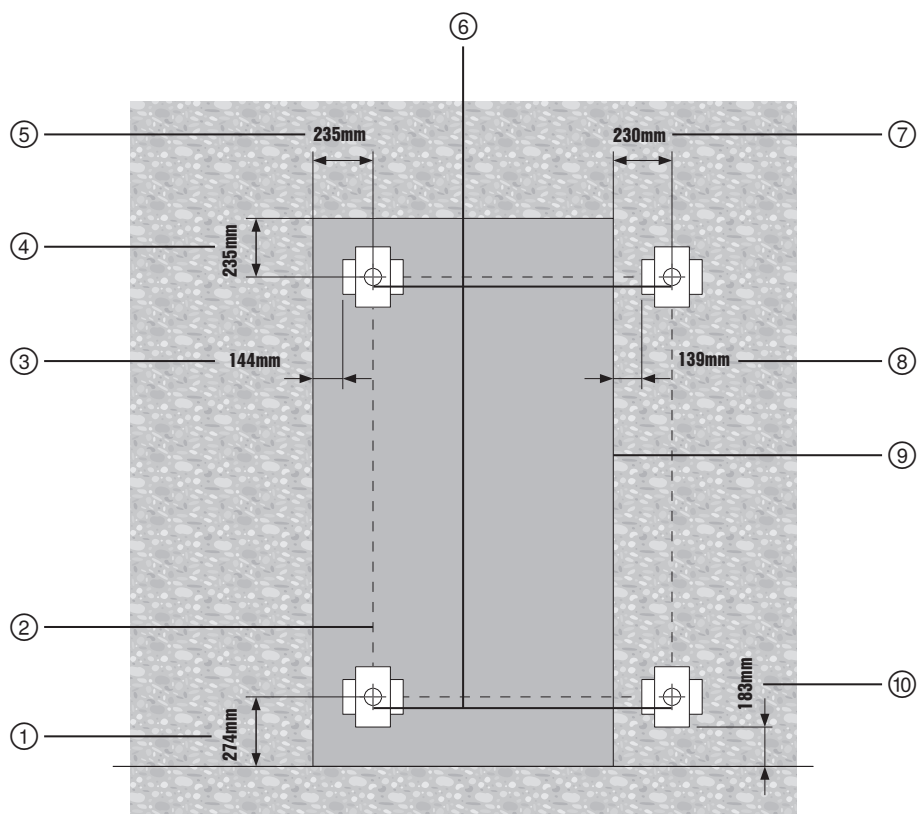


レールサポートとレール終端または接続位置との最大間隔

7 装置の設置



DST 10-CA ソーヘッドの主要寸法 (単位 : mm)



切断のためのアンカーとレールサポートとの間隔

7 装置の設置

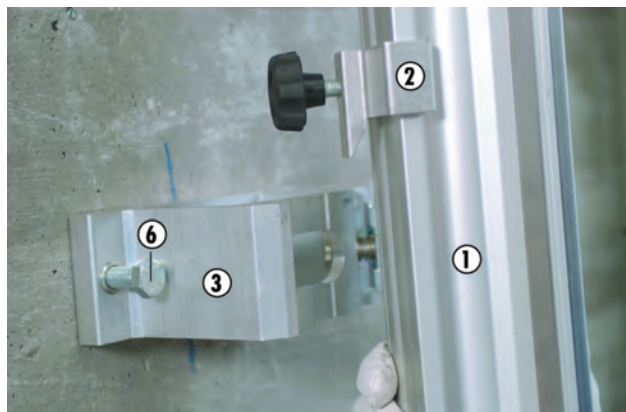
- ① フラッシュ切断時の床面からのアンカー間隔
- ② アンカーライン
- ③ カuttingエッジ (ソーブレード付き) からのレールサポート間隔
- ④ カuttingエッジ (ソーブレード付き) からのアンカー間隔
- ⑤ カuttingエッジ (ソーブレード付き) からのアンカー間隔
- ⑥ レールサポートのアンカーポジション、90° 回転させて水平および鉛直切断に使用可能
- ⑦ カuttingエッジ (ソーブレードなし) からのレールサポート間隔
- ⑧ カuttingエッジ (ソーブレードなし) からのアンカー間隔
- ⑨ 切断部 (ドア開口部など)
- ⑩ フラッシュ切断時の床面からのレールサポート間隔

1. レールサポート取付け用のアンカーボアの位置に印を付けます。
注意事項レールサポートはレール終端から最大 50 cm、レール継目から最大 100 cm 離すことができます。2つのレールサポート間の間隔は 170 cm を超過してはなりません。
2. アンカーボアを作成します (深さと直径はアンカーメーカーの指示に従ってください)。
3. アンカーボアから穿孔粉じんを除去します。
4. アンカーを挿入し (ヒルティ HKD-D M12 など)、打設工具で開きます。
5. カラーナット付き固定用ネジ 8.8 (アクセサリーケースの納品内容に含まれています) を手で一杯の深さまでねじ込みます。

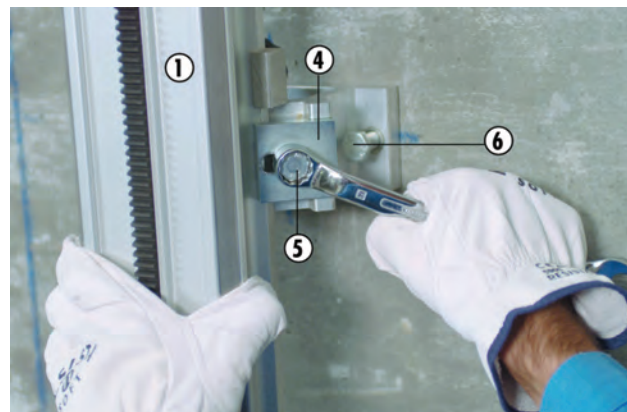


6. レールサポートを取り付け、位置決めしてカラーナットを軽く締め付けます。
注意事項取付け時にはレベル調整スクリューはサポートの接触面にあってはなりません。

7.3 レールの取付け



標準レールサポートによるレールサポート取付け



標準レールサポートによるレールサポート取付け



斜め切断および階段切断サポートによるレールサポート取付け



斜め切断および階段切断サポートによるレールサポート取付け

- ① レール
- ② レールフック
- ③ レールサポート
- ④ レールクランプ用クランププレート
- ⑤ レールクランプ用クランピングスクリュー
- ⑥ レベル調整スクリュー
- ⑦ 階段切断用クランププレート

注意事項

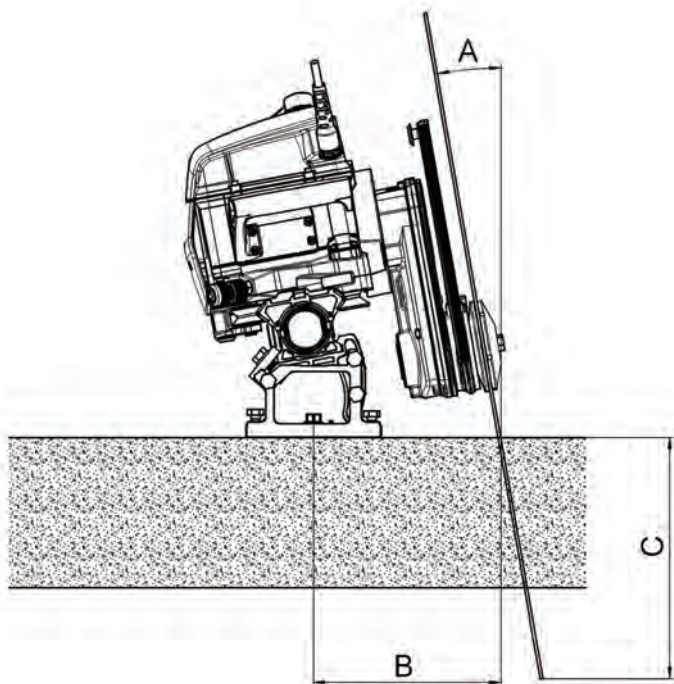
レールフックは斜め切断レールサポートとして使用することはできません。

1. レールフックをレールに取り付けます。
2. レールフックを取り付けたレールをレールサポートにかけ、クランププレートを閉じます。
3. レールサポートをレールに対して直角に位置決めし、クランププレートを締め付けます。
4. 高さにずれが生じた場合はレベル調整スクリューで調整します。

7 装置の設置

5. 切断間隔を調整して固定用ネジを締め付けます。
注意事項その際、予定切断位置からのレールサポートの間隔に対する規定に注意してください。
6. 両方のレール終端にエンドストップを取り付けます。

7.3.1 斜め切断の調整量



A	B	C			
		(Ø) 600 mm	(Ø) 700 mm	(Ø) 800 mm	(Ø) 900 mm
0°	23.0 cm	23.0 cm	28.0 cm	33.0 cm	38.0 cm
5°	23.8 cm	19.9 cm	24.9 cm	29.9 cm	34.9 cm
10°	24.8 cm	17.1 cm	22.0 cm	26.9 cm	31.8 cm
15°	26.0 cm	13.9 cm	18.8 cm	23.7 cm	28.5 cm
20°	27.6 cm	10.8 cm	15.5 cm	20.2 cm	24.9 cm
25°	29.5 cm	7.5 cm	12.0 cm	16.5 cm	21.1 cm
30°	31.8 cm		8.3 cm	12.7 cm	17.0 cm
35°	34.6 cm			8.6 cm	12.7 cm
40°	38.1 cm				8.3 cm

7.4 レールの延長

注意事項

長い距離の切断のために、個々のレールをテーパ接続具および偏心ピンを使用して単一の剛性の高いユニットに延長することができます。



- ① レール
- ② テーパー接続具
- ③ 偏心ピン
- ④ 1/2" 四角レンチ
- ⑤ テーパースリーブ

1. テーパーおよびテーパースリーブを清掃します。
2. テーパーを挿入して偏心ピンで固定します。
3. レールをテーパーに取り付けて偏心ピンで固定します。
4. 偏心ピンを緩めるには反対方向に回してテーパーを押し出します。

7.5 ソーヘッドの取付け

注意

ソーヘッドのロックを解除する前に、ソーヘッドを確実に保持していることを確認してください。

注意事項

フラッシュ切断を行うには、DS-FCA-110 フラッシュ切断フランジをソーヘッドに取り付けます。

7 装置の設置



- ① リリースボタン内蔵クランプレバー
- ② リリースボタン
- ③ ガイドローラー
- ④ ガイド面

1. リリースボタン②を押し、クランプレバー①を下へ押し下側の位置でロックします。
注意事項クランプレバーが開いたあるいは閉じた位置で問題なくロックしない場合は、ソーヘッドの取付けを中止してください。
2. ソーヘッドを固定されているレールに取り付けます。
3. ガイドローラー③が正しい位置にあるか点検します。
注意事項ガイド面④はガイドローラーの中心にあるようにします。
4. リリースボタン②を押し、クランプレバー①をロック位置まで上へ引きます。
5. 手を放す前に、レール上のガイドローラー③の位置とクランプレバーが正しくロックしているかを点検します (クランプレバーを前後に動かします)。

7.6 ブレードカバーホルダーを調整する



- ① ブレードカバーホルダー
- ② ブレードリリーサーロック

1. ブレードカバーホルダー①を希望の位置に調整します (45°/90°/135°)。
2. レバー②を軽く押して、同時にブレードカバーホルダーをロックするのを感じることができるときまで回し、その後レバーを死点上方で閉じます。

3. ロックを解除するにはレバー②を反対方向へ開きます。

7.7 電源コード、リモートコントロールケーブルおよび冷却水ラインを接続する

注意

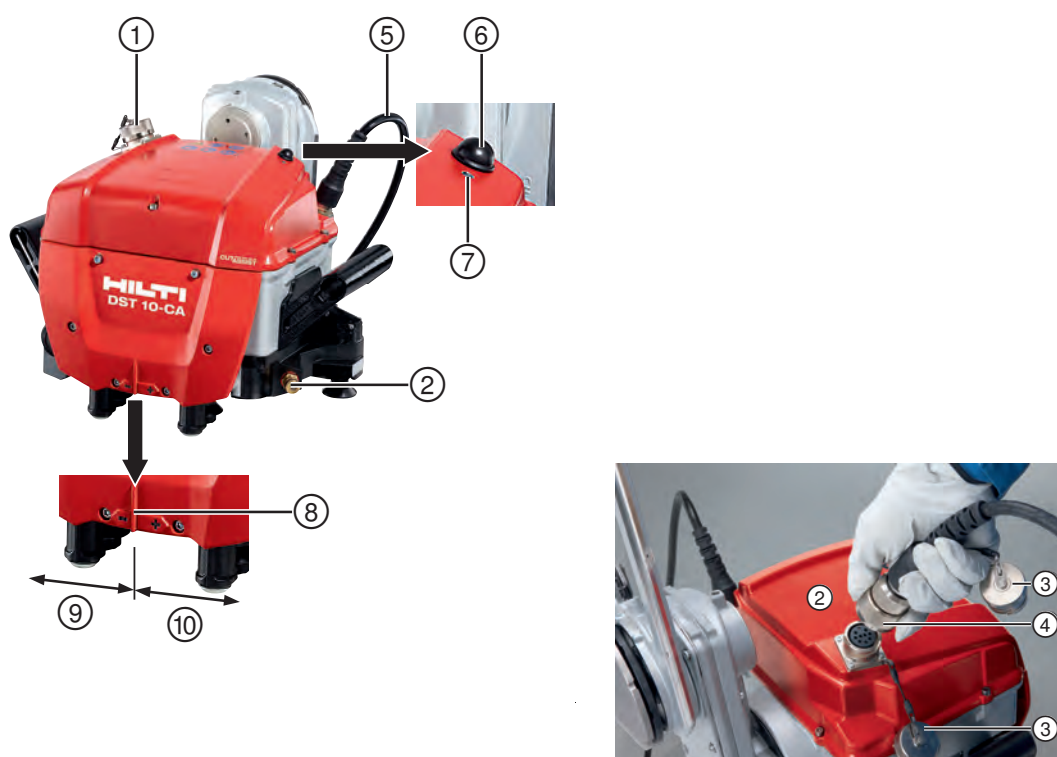
接続解除の際は、必ず電源コードではなくプラグをもって引き抜いてください。直ちに保護キャップで封止してください。

注意

損傷を防止するためソケットとプラグに汚れや不具合がないか点検し、必要に応じて接続前に不具合や汚れを除去してください。

注意

電源コードはもつれないようにし、プラグ接続が水中に入ることなく、またピンと張られることなくソーヘッドを追隨できるように取り回してください。



① リモートコントロールケーブル用コンセント

② 冷却水接続部

③ コンセントおよびプラグ用保護キャップ

④ セーフティースリーブ

⑤ 電源コード

⑥ アンテナ

⑦ スタンバイ表示

7 装置の設置

- ⑧ 位置決定用マーク (Cut Assist 用)
- ⑨ 切断終点に対するマイナス方向の間隔 (Cut Assist 用)
- ⑩ 切断終点に対するプラス方向の間隔 (Cut Assist 用)

1. 冷却水ラインを接続する
2. 電源コードを電源に接続する
3. 無線で作業する場合は、ここでリモートコントロールユニットをオンにします
注意事項リモートコントロールケーブルで作業する場合は、追加して以下の作業を行ってください：
4. リモートコントロールケーブルを接続するために保護キャップを取り外します
5. プラグの位置を調整し、無理な力を加えずに一杯の深さまで押し込みます
6. セーフティスリーブを閉じてロックします
7. リモートコントロールユニットをオンにします

7.8 ソーブレードを取り付ける

注意事項

フラッシュ切断を行うには、DS-FCA-110 フラッシュ切断フランジとフラッシュブレードカバー (オプションでお求めいただけます) を使用します。

中央のクランピングスクリューには、必ずヒルティ純正のネジ (鋼品質 10.9) を使用してください。

ウォールソーを使用する前にその都度、フランジとソーブレードに損傷、亀裂、熱の影響による変色がないか確認し、オイルや油脂が付着しているソーブレードは清掃してください。



- ① ソーブレード
- ② センタリングおよびサポートフランジ
- ③ ブレードフランジ
- ④ クランピングスクリュー
- ⑤ フラッシュ切断固定具用のボア

1. ソーブレード① を正しい回転方向でソーアームのドライブハブに取り付けます。

2. ブレードフランジ③ を取り付けて、固定用ネジを軽く締めます。
3. ソーブレード① の位置を調整して、フラッシュ切断固定具用のボア⑤ が水溝の間に位置するようにします。
4. クランピングスクリュー④ を口径 19 のボックスレンチで力を入れて締め付けます (110 Nm)。

7.9 ブレードカバーを取り付ける

注意事項

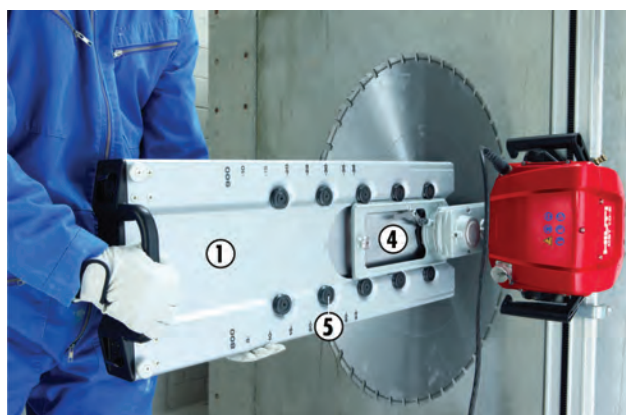
現場における特殊な条件によりブレードカバーを使用できない場合には、作業領域をせき板で囲むなどの処置により隣接する領域を飛散物から保護する必要があります。

フラッシュ切断を行うには、DS-FCA-110 フラッシュ切断フランジとフラッシュブレードカバー（オプションでお求めいただけます）を使用します。

ブレードカバーは汚れのない状態に保ち、その機能を確実なものにするために使用後は定期的に清掃してください。

注意

サイドセクションは直接コーナー切断の場合のみ取り外します。



- ① ブレードカバーセンターセクション
- ② ブレードカバーサイドセクション
- ③ メタルフック
- ④ ブレードカバーホルダー
- ⑤ ガイドローラー

7 装置の設置

⑥ クランプクリップ

⑦ クランプカム

⑧ クランプゴム

1. ブレードカバーセンターセクション①またはブレードカバー全体をブレードカバーホルダー④に取り付けます。
2. 両方のメタルフック③をブレードカバーサイドセクション②からブレードカバーセンターセクション①に差し込み、続いてクランプクリップ⑥で固定します。
3. ブレードカバーホルダーのブレードカバーをクランプゴム⑧でクランプカム⑦に固定します。
4. サイドセクション②を取り外すには、クランプクリップ⑥を開いて取り外します。

8 ご使用前に

8.1 切断開始前の点検

- 工事現場側の事前作業が行われていること（サポート、水の回収など）。
- 切断する構造物要素の前後の危険領域における安全が確保され、周囲から遮断されていること。危険領域内に人がいないこと。
- 電源および水が接続されていること。供給電源はアースされ漏電遮断器が備わっていること。水圧が許容範囲内であること。
- レールサポートとレールが正しい位置に調整され固定されていること、すべてのネジとナットが確実に締め付けられていること。
- ソーヘッドがレールに正しく取り付けられ、ロックレバーがロックされていること。ロックレバーが正しくロックされているかレバーを前後に動かして点検する。
- ソーブレードが正しい回転方向に取り付けられていて、ソーブレードフランジの固定用ネジまたは6本の皿ネジ（面一になっていること）が締め付けられていること。
- ブレードカバーとエンドストップが取り付けられ固定されていること。
- リモートコントロールユニットが無線またはリモートコントロールケーブルによりソーヘッドと接続されていること。
- リモートコントロールユニットの非常停止が正しく機能し、ロック解除され確認されていること。
- リモートコントロールユニットが手許にあること。
- ソーヘッドのスタンバイ表示が点灯していること。
- 安全対策が行われていること。
- リモートコントロールユニットの取扱説明書を読み、使用方法について理解していること。

8.2 ガイドラインおよび基準値

先行切断

最初の切断を先行切断と呼びます。先行切断は常にソーアームを引いた状態で行います。対象物に応じて（硬い、柔らかい、あるいは石材）先行切断の切り込み深さは約4 cmとします。

注意事項

先行切断では送り速度を低減して（60% など）切断を行います。これにより、まっすぐなずれのない切断が保証されます。

後続切断

後続切断は、ソーアームを引いたあるいは押した状態でフル送り速度（100%）で行うことができます。

切り込み深さは対象物に大きく左右されます。5...9 cmの切り込み深さを推奨します。

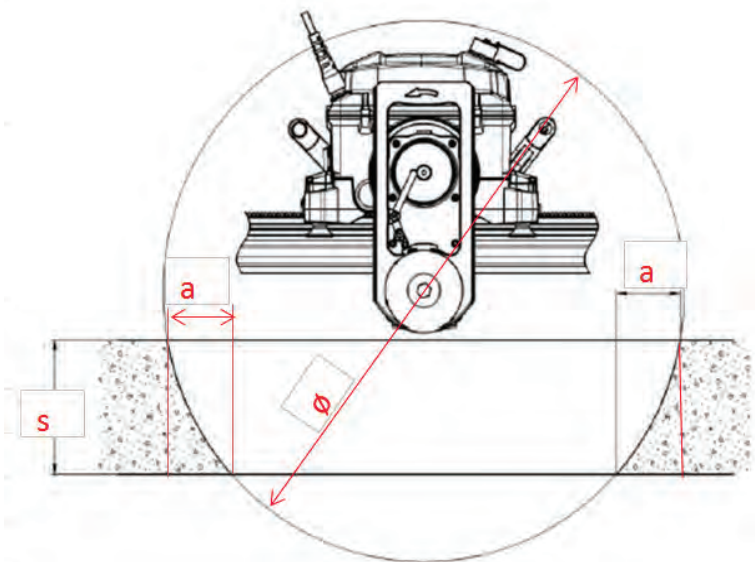
注意

ソーブレードが切断継目で回転していない状態でソーヘッドを長さ方向に送ると、ソーがカッティングエッジと反対の方向に動くときソーが損傷する危険があります。

ソーヘッドを動かす前に、必ず回転していないソーブレードを切断継目から出してください。

8 ご使用前に

8.3 超過切断または残留距離



s 構造物要素の厚さ

a 残留距離

φ ブレード直径

超過切断または残留距離は、壁面の厚さとソーブレード直径に起因するものです。

超過切断または残留距離

s	a			
	(Ø) 660 mm	(Ø) 710 mm	(Ø) 810 mm	(Ø) 910 mm
120 mm	53 mm	48 mm	41 mm	36 mm
130 mm	60 mm	55 mm	47 mm	41 mm
140 mm	68 mm	62 mm	53 mm	46 mm
150 mm	77 mm	69 mm	59 mm	51 mm
160 mm	86 mm	78 mm	66 mm	57 mm
170 mm	96 mm	86 mm	73 mm	63 mm
180 mm	107 mm	96 mm	80 mm	69 mm
190 mm	119 mm	106 mm	88 mm	76 mm
200 mm	133 mm	118 mm	97 mm	83 mm
210 mm	148 mm	130 mm	106 mm	91 mm
220 mm	165 mm	143 mm	116 mm	99 mm
230 mm	185 mm	158 mm	127 mm	107 mm
240 mm	209 mm	175 mm	138 mm	117 mm
250 mm	242 mm	194 mm	151 mm	126 mm
260 mm		217 mm	164 mm	136 mm
270 mm		246 mm	179 mm	147 mm

s	a			
	(Ø) 660 mm	(Ø) 710 mm	(Ø) 810 mm	(Ø) 910 mm
280 mm		289 mm	195 mm	159 mm
290 mm			213 mm	171 mm
300 mm			234 mm	185 mm
310 mm			259 mm	199 mm
320 mm			290 mm	215 mm
330 mm			335 mm	233 mm
340 mm				252 mm
350 mm				275 mm
360 mm				301 mm
370 mm				334 mm
380 mm				382 mm

注意事項

Cut Assist モードでは、超過切断は上表の右端に表示された超過切断長さまでしか行われません。

例：ソーブレード直径[Ø]が810 mmで壁厚[s]が280 mmの場合、残留距離または超過切断[a]は195 mmとなります。超過切断のあるこの切断は、手動モードでのみ行うことができます。

8.4 ソー装置の分解**注意**

ソーヘッドのロックを解除する前に、ソーヘッドを確実に保持していることを確認してください。

注意

損傷を防止するために、電源から切り離す前にソーブレードドライブおよび長さ方向送り / 下降送りをオフにしてください。

注意

損傷を防止するために、凍結の危険がある場合には装置の冷却回路をブロワする必要があります。

1. ソーアームを90°の位置に旋回し、本体をオフにして電線を抜きます。
2. リモートコントロールユニットを取り外し、プラグとソケットを保護キャップで封止します。
3. ソーヘッドからウォーターホースを取り外し、ブレードカバー、ソーヘッドおよびレーンシステムを清掃します。
4. ブレードカバーとソーブレードを取り外して清掃します。

8 ご使用前に

5. ソーヘッドとレールシステムを取り外して清掃します。
6. ソーヘッド、レールシステム、アクセサリおよびブレードカバーを搬送ワゴンに積載して固定します。
7. 電源コードとホースを清掃し、巻いて搬送ワゴンに固定します。

8.5 凍結の危険がある場合に装置の冷却回路をブロフする



1. ポンプのホースにブロワアダプターを差し込みます。
2. ポンプをソーヘッドの給水コネクタに接続します。
3. ソーヘッドを8回以上のポンプストロークで水が流出しなくなるまでブロフします。

9 手入れや保守

9.1 機能点検

危険を予防するために、以下に言及するシステムコンポーネントは、問題点がないか定期的に機能点検および目視点検する必要があります：

- ソーヘッドのハウジングとリモートコントロールユニット
- ソーブレードとフランジ
- リモートコントロールユニットの非常停止
- 操作エレメント
- 表示部
- シール
- 電源コード
- ブレードカバー
- 搬送システム

9.2 手入れや保守

コンポーネント	作業	毎日実施	週ごとに実施
レールサポート	接触面およびクランプ面を点検し、必要に応じて清掃する	●	
	ネジがスムーズに回るか点検し、必要に応じて清掃する		●
レール	接触面および作動面を点検し、必要に応じて清掃する	●	
	噛合い部に損傷や摩耗がないか点検し、必要に応じてレールを交換する		●
	テーパースリーブに汚れがないか点検し、必要に応じて清掃して注油する	●	
ブレードカバー	内面および外面を点検して清掃し、付着している切断作業で生じたスラッジを除去する	●	
	ガイドローラーがスムーズに回るか点検し、必要に応じて清掃または交換する		●
	クランプゴムの状態を点検し、必要に応じて交換する	●	
	クランプクリップのクランプを点検し、必要に応じて六角ネジを増締めする	●	
ソーヘッド	ロック部が確実にロックするか点検し、必要に応じて修理を依頼する	●	
	ガイドローラーのスムーズな動きと遊びを点検し、必要に応じて調整または修理を依頼する		●

9 手入れや保守

コンポーネント	作業	毎日実施	週ごとに実施
ソーヘッド	プラグ接続に汚れや損傷がないか点検し、必要に応じて圧縮エアでブロワするか、交換を依頼する	●	
	電源コードに損傷がないか点検し、必要に応じて交換を依頼する	●	
	ソーブレードフランジおよびクランピングスクリューを点検し、必要に応じて清掃または交換する	●	
	ソーヘッドに異常なオイルおよび水の漏出がないか点検し、必要に応じて修理を依頼する		●
	水の導通を点検し、必要に応じて取水口のストレーナーを交換する		●
ウォーターホース	プラグ接続に汚れがないか、スムーズに動くか、漏れがないか点検し、必要に応じて清掃して潤滑する（潤滑スプレー）	●	
	ホースに漏れがないか点検する		●
電源コード / プラグ	プラグ接続に汚れがないか、スムーズに動くか、損傷がないか点検し、必要に応じて圧縮エアでブロワするか、交換を依頼する	●	
	電源コードに損傷がないか点検し、必要に応じて交換する	●	
搬送ワゴン	タイヤ圧を点検する (2.1 bar または 30 PSI)		●
ツールセット	欠品がないか点検する		●

9.3 清掃

注意

ソーヘッド、リモートコントロールユニットおよび電源コードの清掃に高圧クリーナーを使用してはなりません。水が浸入して機能障害および損傷の原因となることがあります。

注意

コンクリート分離剤および離型剤の使用の際は、溶剤を含有する保守製品を使用しないように注意してください。

注意

溶剤を含んだ製品は、シールやハウジング部品に作用してこれらを劣化させる危険があります。

1. 電源供給を切り離します。
2. 作業終了の前あるいは長時間の使用休止の前には、すべての装備を清掃してください。

3. 固着した汚れが乾燥してしまわないようにしてください。
4. 清掃の際には、特に作動面、ネジ、カップリング、噛合い部、可動部品間の接合箇所、安全および操作に関する注意事項、および操作エレメントに注意してください。
5. すべてのプラグとカップリングを封止してください。
6. ソーヘッド、レールシステム、ブレードカバーシステムおよび搬送ワゴンは中程度の硬さのブラシと水で清掃してください。

9.4 ガイドローラーを後調整する

ガイドローラーに遊びが認められる場合は、後調整することができます：



1. レールを床面に置いてその上にソーを固定します。
2. ガイドローラーのロックを解除します。



3. ローラーがレールに接触するまでローラー軸のロックングボルトを軽く回します。
4. ガイドローラーのロックを再び締め付けます。
注意事項ローラーはなお手で回すことができなければなりません。
5. 2番目のローラーでも同様の手順で作業します。

9 手入れや保守

9.5 修理の実施

注意

本体の使用、保守、修理を行うのは、ヒルティが認定した、講習を受けた人のみとします。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。

注意

本体の電気系統コンポーネントの修理を行えるのは、講習を受けた修理スペシャリストのみです。

注意

建設現場では本体のハウジングカバーは決して開かないでください。

9.6 サービス間隔

200 運転時間ごとにヒルティサービスセンターに本体の点検を依頼することをお勧めします。これにより本体を使用可能な状態に維持し、故障の結果としての高額な事後負担を回避できます。

注意事項

リモートコントロールユニットに次回のサービスまでの残り時間を表示させることができます。

10 故障かな？ と思った時

10.1 故障インジケータに表示されない故障原因とその解消のための処置

症状	考えられる原因	処置
切断がずれる	ソーブレードの張りが不十分	張りを点検する / ブレードを交換する
	ソーブレードの切れ味が悪い	製品仕様を確認する / ブレードを交換する
	先行切断が行われていないか まっすぐでない	基準値を遵守する
	ガイドローラーに「遊び」がある	遊びを点検する / ローラーを後調整する / ローラーまたはレールを交換する
	レール固定が緩んでいる	固定を点検する / 確実に固定する
	レールがねじれている	追加レールサポートを取り付ける
切断能力が弱い	ソーブレード仕様が適切でない	仕様を確認する、可能であれば仕様を変更する
	送り深さが大きすぎる	送り深さを点検する、可能であれば浅くする
	送り速度が低すぎる	設定を確認する、可能であれば送り速度を高める
	切断のずれによる性能低下	「切断がずれる」の項目を参照
	高い鉄筋含有率による性能低下	鉄筋含有率を確認する、可能であれば切断位置を変更する
	ソーブレード回転数が高すぎる、または低すぎる	回転数を確認する、可能であれば回転数を高めるあるいは低くする

11 廃棄

11 廃棄



本体の大部分の部品はリサイクル可能です。リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。多くの国でヒルティは、古い電動工具をリサイクルのために回収しています。詳細については弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にお尋ねください。



EU 諸国のみ

電動工具を一般ゴミとして廃棄してはなりません。

古い電気および電子工具の廃棄に関するヨーロッパ基準と各国の法律に基づき、使用済みの電気工具は一般ゴミとは別にして、環境保護のためリサイクル規制部品として廃棄してください。

穿孔および切断作業で生じたスラッジの廃棄

注意事項

環境保護の観点から、切断作業で生じたスラッジを適切な前処理なしに、そのまま河川、湖水、下水施設などに流すのことは問題があります。

穿孔または切断作業で生じたスラッジの廃棄の際には、以下の推奨前処理の他に、地域で適用されている法規についても注意が必要です。これについては、各地域の担当当局にお問い合わせください。

前処理として以下をお勧めします：

1. 穿孔または切断作業で生じたスラッジを集めます（例：集じん機を使用）。
2. 穿孔または切断作業で生じたスラッジ中の微細物は沈殿により分離させることができます（例：スラッジを立てた状態にしておく、あるいは凝集剤の添加）。
3. スラッジ中の固形物は建設廃棄物処理所で廃棄する必要があります。
4. スラッジから流れ出る水は、下水に流す前に中和する必要があります（例：多量の水、あるいは中和剤の添加）。

12 本体に関するメーカー保証

保証条件に関するご質問は、最寄りのヒルティ代理店・販売店までお問い合わせください。

13 EU 規格の準拠証明 (原本)

13 EU 規格の準拠証明 (原本)

名称:	電動ウォールソー
機種名:	DST 10-CA
製品世代:	01
設計年:	2014

この製品は以下の基準と標準規格に適合していることを保証します: 2016年4月19日
日まで: 2004/108/EG、2016年4月20日以降: 2014/30/EU、1999/5/EG、2006/42/EG、
2011/65/EU、EN 300 328 V1.8.1、EN 301 489-1 V1.9.2、EN 301 489-17 V2.2.1、EN 15027、
EN 60204-1、EN ISO 12100。

本機は、お客様設備の商用電源への接続位置における短絡容量 S_{SC} が 3.2 MVA 以上であるという条件において、当該の標準規格に適合しています。本機の設置者あるいは経営者の責任において、本機が必ず S_{SC} 値が 3.2 MVA 以上の接続位置に接続されていることを確認し、必要に応じて電力業者に照会してください。

Hilti Corporation、Feldkircherstrasse 100、FL-9494 Schaan



Paolo Luccini
Head of BA Quality and Process Management
Business Area Electric Tools & Accessories
06/2015



Johannes Wilfried Huber
Senior Vice President
Business Unit Diamond
06/2015

技術資料:

Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH
Zulassung Elektrowerkzeuge
Hiltistrasse 6
86916 Kaufering
Deutschland



Hilti Corporation

LI-9494 Schaan

Tel.: +423/234 21 11

Fax: +423/234 29 65

www.hilti.com

